

2025年11月10日発行

東海生研～メールマガジン 第251号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

1. 2025年度「知」の集積による産学連携推進委託事業

☆「アグリビジネス創出フェア in 東海」の開催について

【目的】東海地域における大学、企業、公設試験場、独立行政法人等の研究開発シーズや成果を紹介する場を提供し、参加者の産学官マッチングによるビジネス創出を支援します。

【開催場所】名古屋大学 野依記念学術交流館

名古屋市千種区不老町 地下鉄 名古屋大学駅下車 2番出口 徒歩5分

【開催日時・プログラム】

・会場展示

2025年12月10日(水)野依記念学術交流館 1階

13:00-17:00 開会式 ブース展示、ポスター展示

・シンポジウム、第4回セミナー(ハイブリッド開催)

2025年12月11日(木) 野依記念学術交流館 2階

10:00-12:00 東海4県農業関係試験研究機関シンポジウム

開催テーマ「気候変動に対して取り組んでいる農業分野の研究開発」

静岡県・愛知県・岐阜県・三重県

13:00-15:00 NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 第4回セミナー

企業、高校、団体など

・Web展示

2025年12月10日(水)～2026年1月16日(金)

東海生研HPにて出展機関のデータ(テキスト等、映像)を公開します。

主催：NPO法人東海地域生物系先端技術研究会

共催：東海4県農業関係試験研究機関、名古屋大学大学院生命農学研究科、

東海バイオコミュニティ

後援：農研機構中日本農業研究センター

公益財団法人農林水産・食品産業技術振興協会

セミナー等は東海生研HPからお申し込み下さい。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....
2.その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

「アグリビジネス創出フェア 2025」を開催します！

農林水産省は、11月26日（水）から11月28日（金）までの3日間、東京ビッグサイトにおいて、農林水産・食品分野の技術交流展示会「アグリビジネス創出フェア2025」を開催します。

今年は、“スマート・スタートアップー先端技術で未来を拓く農林水産イノベーション”をテーマに、スマート農業技術メーカー等が参加して、農林水産・食品分野等における最新の研究成果について出展するとともに、来場者と出展者のマッチングを促すツアーなど様々な企画を行います。

10月10日（金）より、来場事前登録を開始しました。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

■「アグリビジネス創出フェア2025スマート・スタートアップー先端技術で未来を拓く農林水産イノベーション」について

日 程：2025年11月26日(水)～28日(金) 各日 10:00～17:00

会 場：東京ビッグサイト西3ホール（東京都江東区有明3-11-1）

入場料：無料

詳 細：<https://agribiz.maff.go.jp/>

■来場事前登録

以下のURLの専用フォームから行ってください。

<https://agribiz.maff.go.jp/register>

※当日参加も可能ですが、事前登録をしていただくと入場がスムーズです。

お問い合わせ先

(事業全般について)

農林水産技術会議事務局研究推進課産学連携室

担当者：橋本、東 代表：03-3502-8111（内線5894） ダイヤルイン：03-3502-5530

(参加手続や出展ブース・セミナーについて)

アグリビジネス創出フェア2025事務局（株式会社フジヤ内）

担当者：小松、飯田 電話：03-3533-5522 E-mail：agri-ex★fujiya-net.co.jp

（「★」は半角の「@」に置き換えてください）

《生研支援センターの研究委託事業に関する令和8年度予算概算要求に基づく応募前説明及び個別相談のご案内》

生研支援センターでは、幅広い分野から優れた研究課題を提案していただくことを目的に、令和8年度予算概算要求に基づいた公募事業の概要や応募に当たっての留意点、委託費の使用等に関する留意点や、研究活動における不正行為の防止等について、動画で説明するとともに、個別相談を実施します。ぜひご覧ください。

▼詳細はこちらから(生研支援センターウェブサイト)

<https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/event/172251.html>

【動画掲載期間】

令和 7 年 10 月 31 日(金曜日)～

上記生研支援センター ウェブサイト上に説明動画・資料を掲載しております。

【説明内容一覧】

- (1) 『「知」の集積と活用の場』及び令和 8 年度予算概算要求について
- (2) オープンイノベーション研究・実用化推進事業の概要及び応募に当たっての留意点
- (3) スタートアップ総合支援プログラム(SBIR 支援)の概要及び応募に当たっての留意点
- (4) スマート農業技術の開発・供給促進事業の概要及び応募に当たっての留意点
- (5) 委託費の使用等に関する留意点
- (6) 研究活動における不正行為の防止

【個別相談】

申込受付期間：令和 7 年 10 月 31 日(金曜日)～12 月 11 日(木曜日)17:00

※定員に達し次第締め切り

実施日：令和 7 年 11 月 10 日(月)・17 日(月)・12 月 8 日(月)・15 日(月)・18 日(木)

申込方法：上記生研支援センター ウェブサイト上の申込フォームからお申込みください。

【問い合わせ先】

生研支援センター企画課 岡本・稲田・永井

E-mail: brainki1@ml.affrc.go.jp

11 月 12 日(水)に福岡市で開催予定の九州沖縄経済圏スマートフードチェーンプロジェクト事業化戦略会議をご案内いたします。

会議では当該プロに関連する研究の成果を発表し、パネルディスカッションとして企業の農業参入について議論する予定です。

下記 URL にて、内容を紹介しておりますのでご覧下さい。オンライン参加もできますので、ご都合宜しければ参加いただけますと幸いです。

https://www.naro.go.jp/q_sfc/news/171324.html

1. 開催日時 2025 年 11 月 12 日(水曜日)13 時 00 分～17 時 00 分

2. 開催場所 パピヨン 24 ガスホール(福岡県福岡市博多区千代 1 丁目 17-1)

3. 内容等(開催要領) 別紙開催要領のとおり

4. 参加費 無料

5. 定員 会場 200 名(先着順)及びオンライン配信

6. 申込方法

以下の URL 又は二次元バーコードより各項目に必要事項をご記入の上、11 月 10 日(月曜日)17 時までにお申し込みください。定員となり次第、締切とさせていただきます。

URL: https://prd.form.naro.go.jp/form/pub/naro01/q_sfc_seventhy

.....

3. 2025 年度の競争的研究資金について

【研究開発関連】

■省庁等

☆NEDO :「2025 年度第 2 回新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業（新エネ中小・スタートアップ支援制度）

☆JST :「経済安全保障重要技術育成プログラム 2025 年度第 3 回研究開発課題公募（個別研究型）」

■民間等

☆公益財団法人食生活研究会 :「2026 年度研究助成」

☆公益社団法人日本農芸化学会 :「第 23 回農芸化学研究企画賞」

☆一般財団法人天野エンザイム科学技術振興財団 :「第 27 回酵素応用シンポジウム研究奨励賞」

2025 年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧下さい。 <https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

4. その他の情報

(1)新技術情報

☆水稻関係

○高温登熟性に優れる水稻早生品種‘清流のめぐみ’の育成

2000 年代頃より水稻の登熟期における高温が影響して発生する白未熟粒が大きな問題となっている。白未熟粒は、登熟期間の高温が茎葉での同化産物供給能力（ソース）と子実での同化産物受容能力（シンク）を低下させ、胚乳細胞の肥大過程でデンプン粒の発達が不完全になり、胚乳内デンプンに間隙を生じさせ、粒内を通過する光を乱反射させ、胚乳部分が白濁して見えることで発生している。なお、‘白未熟粒’は総称であり、デンプンの蓄積異常が起こる時期、すなわち粒内の白濁部位が異なることで、乳白粒、心白粒、腹白粒、背白粒、基部未熟（基白）等と呼ばれる（森田 2009）。

岐阜県平坦地域の白未熟問題は、‘コシヒカリ’を代表とする早生品種において最も顕著であり、2018 年からの 5 か年の一等米比率平均値が 59.5% と低い。更に、‘コシヒカリ’をはじめとする長稈の倒伏し易い品種では、登熟期の降雨や台風の影響によって倒伏すると、それに伴う登熟不良も加わって玄米外観品質を低下させている。

また、今回報告する品種の育成を開始した 2009 年当時は、県平坦地域を中心にヒメトビウンカが媒介するウイルス病の縞葉枯病が多発しており、その低減対策として、栽培的には農薬によるヒメトビウンカの防除法があるものの、品種的にはインド型品種‘Modan’由来の縞葉枯病抵抗性遺伝子 Stvb-i の導入が最も有効と考え（桜井ら 1964），育種目標に加えた。

本県の縞葉枯病抵抗性品種の導入状況は、晩生品種には‘ハツシモ’にStvb-iを導入して開発した‘ハツシモ岐阜SL’（荒井ら 2011），中生品種には‘ほしじるし’‘あさひの夢’，‘モチミノリ’が奨励品種に採用されており，残るは早生品種のみとなっていた。
そこで高温登熟性，耐倒伏性そして縞葉枯病抵抗性を有する新品種育成を進めた結果，‘清流のめぐみ’を開発したので，本稿はその育成経過と特性を報告する。
・岐阜県農業技術センター研究報告 第21号：1～7（2023）
<https://www.g-agri.rd.oref.gifu.lg.jp/>

☆農産関係

○イチゴのアザミウマ類のハウス内侵入量低減に有効な防虫ネット資材を選定
光反射資材（タイベック）が織り込まれた防虫ネット「スリムホワイト45」は、既存の0.8mm目合通常防虫ネットと比較して、イチゴで問題となるアザミウマ類の侵入防止効果に優れるとともに、ハウス内気温には影響を与えない。
イチゴ栽培ではアザミウマ類による果実被害が全国的な問題となっている。特に、本新品種‘きらぴ香’を用いた超促成栽培では暖候期の栽培が長期化するため、アザミウマ類の被害がより激化することが予想される。そこで、アザミウマ類をはじめとする、イチゴで問題となる飛来性害虫に対する各種防虫ネット資材の侵入防止効果を評価し、有効な資材を選定した。併せて、各防虫ネットのハウス内気温への影響も評価した。

静岡県農林技術研究所 2024年度 研究成果情報(植物保護・環境保全科)

<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/1058701/1072081.html>

編集後記

11月に入り暦の上では立冬を迎えました。秋らしい紅葉が美しい季節ともなりました。さて、10月28日に「稻作の現状と未来」のテーマで第3回セミナーをオンライン開催し、多くの方々に参加をいただき感謝申し上げます。また、12月10日?11日に「アグリビジネス創出フェア in 東海」を名古屋大学 野依記念学術交流館で開催します。本メールマガジン及び当研究会ホームページに詳しいご案内を掲載していますので、ご覧いただき、是非、ご参加下さい。

=====《メールマガジンに関するお問い合わせは》=====
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術 TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメールマガ配信の登録（無料）ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>